

決算説明会

2019年3月期 第2四半期

ミネベアミツミ株式会社

2018年11月7日

1. 業績の説明

2. 事業概況と経営戦略

業績の説明

常務執行役員 吉田 勝彦

売上高・営業利益ともに、ほぼ業績予想通り

[IFRS]

(百万円)	2018年3月期	2019年3月期		前年同期比 伸び率	前四半期比 伸び率
	2Q	1Q	2Q		
売上高	237,709	213,038	236,330	-0.6%	+10.9%
営業利益	24,700	14,291	19,624	-20.6%	+37.3%
税引前利益	24,483	14,170	20,106	-17.9%	+41.9%
親会社の所有者に帰属する 四半期利益	18,911	10,886	15,970	-15.6%	+46.7%
基本的1株当たり 四半期利益 (円)	44.91	25.95	38.04	-15.3%	+46.6%

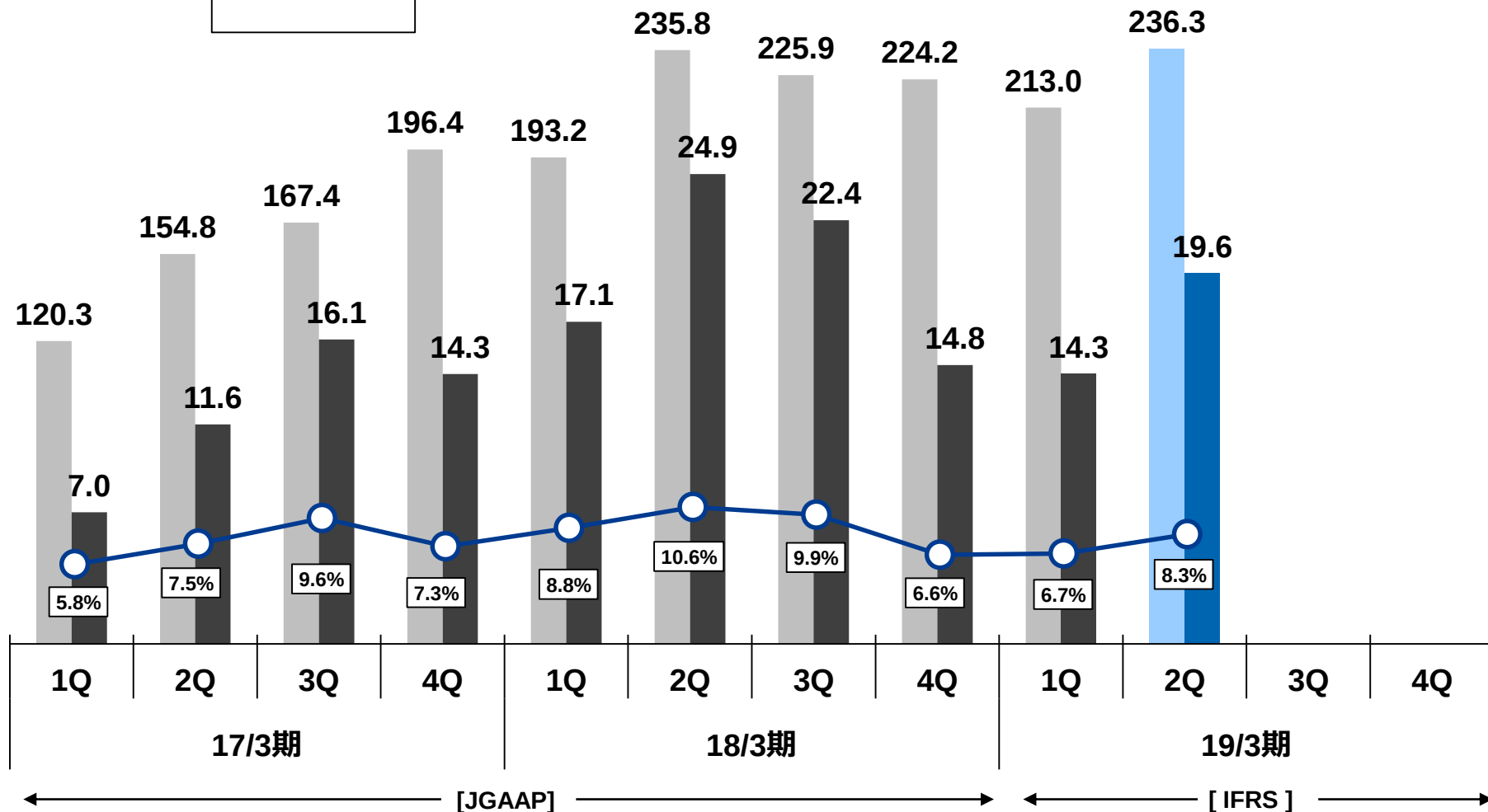
為替レート	18/3期2Q	19/3期1Q	19/3期2Q
US\$	110.92円	108.10円	110.87円
ユーロ	129.65円	129.88円	129.13円
タイバーツ	3.31円	3.42円	3.35円
人民元	16.53円	17.02円	16.37円

売上高、営業利益、営業利益率

18/3期以前はJGAAP

(10億円)

■ 売上高
■ 営業利益
○ 営業利益率



2Q実績 8月時点業績予想からの差異

(10億円)

売上高

240.8

+0.9

+4.7

△9.9

△0.2

236.3

△4.4

8月時点
業績予想

機械加工

電子機器

ミツミ

その他

実績

営業利益

19.7

+0.2

△0.5

△0.5

+0.7

19.6

△0.1

8月時点
業績予想

機械加工

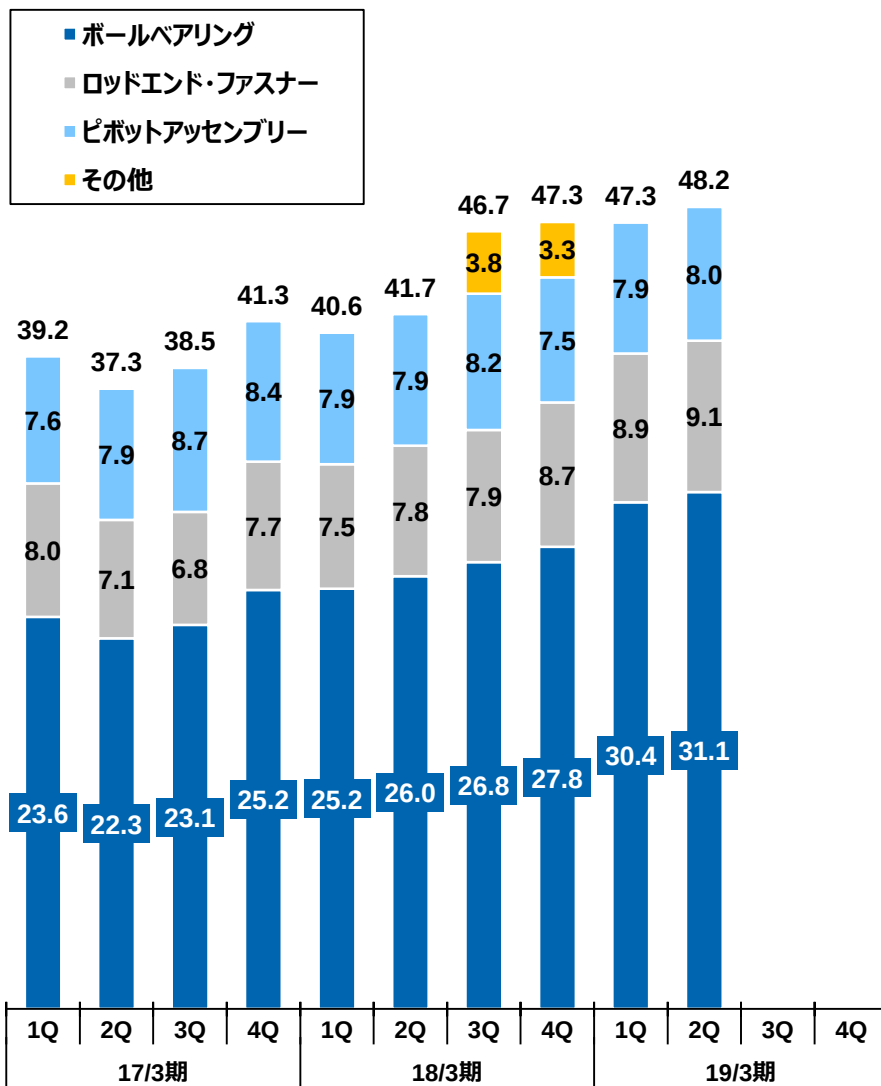
電子機器

ミツミ

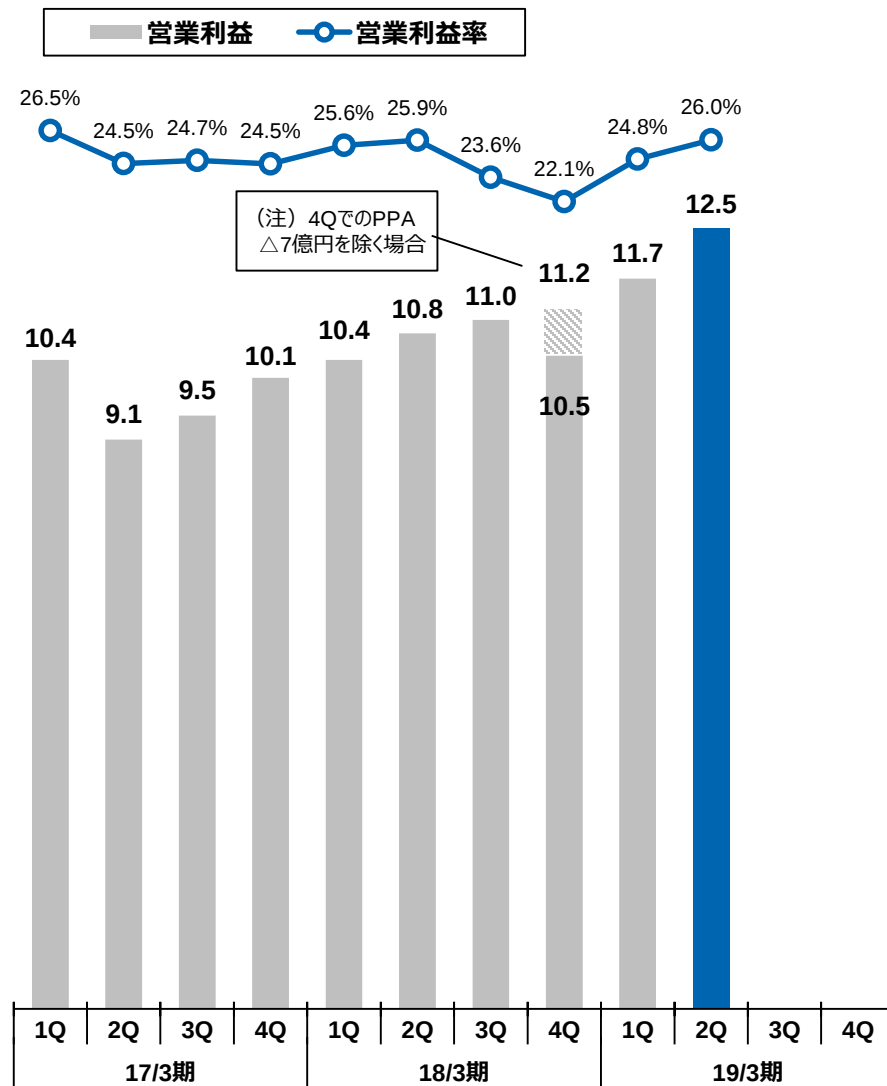
その他

実績

売上高 (10億円)



営業利益 (10億円)

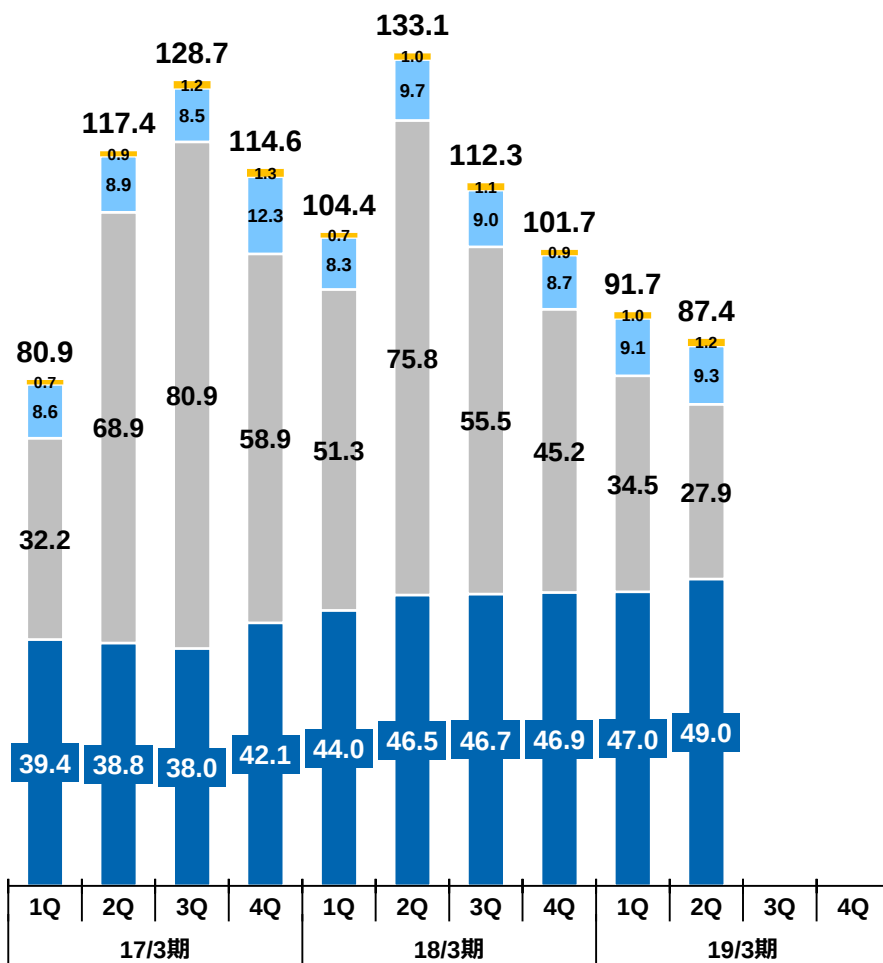


← [JGAAP] → ← [IFRS] →

← [JGAAP] → ← [IFRS] →

売上高 (10億円)

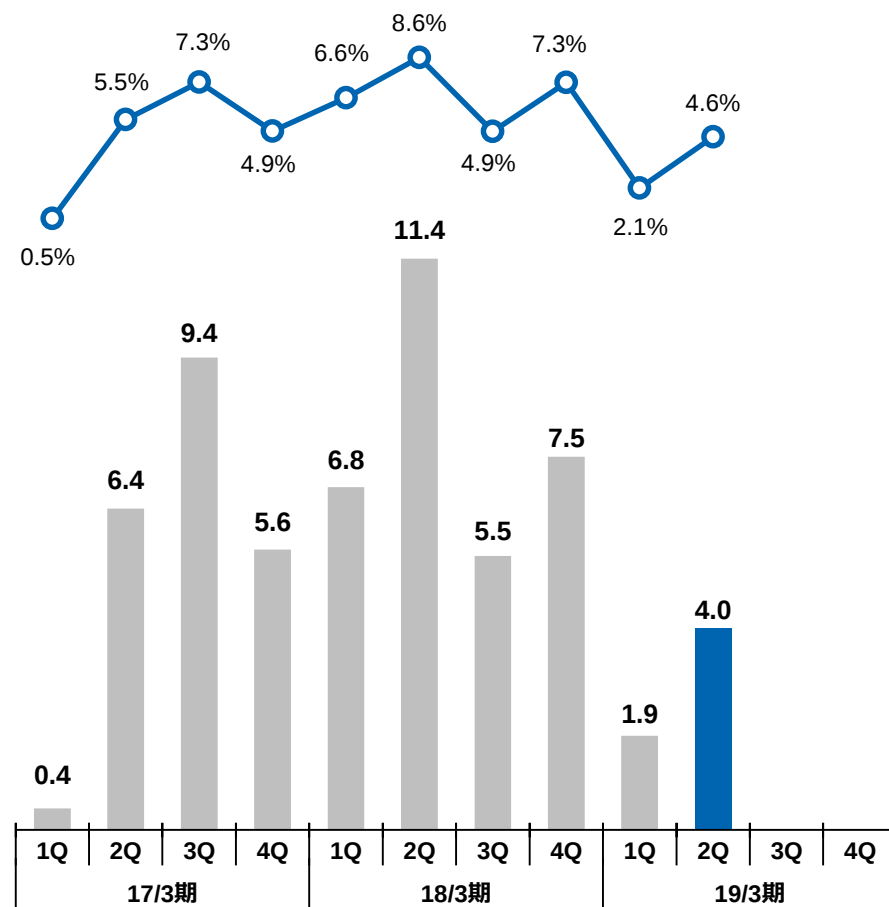
■ モーター ■ エレクトロデバイス ■ センシングデバイス ■ その他



← [JGAAP] → ← [IFRS] →

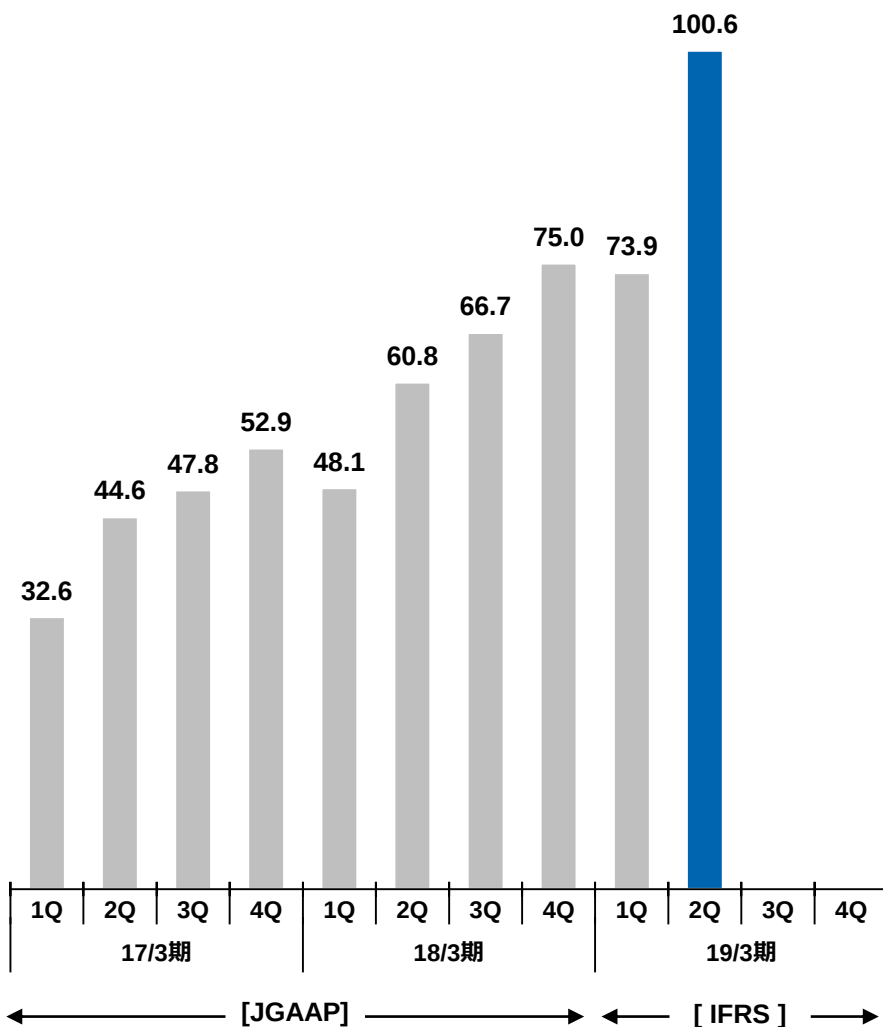
営業利益 (10億円)

■ 営業利益 ● 営業利益率

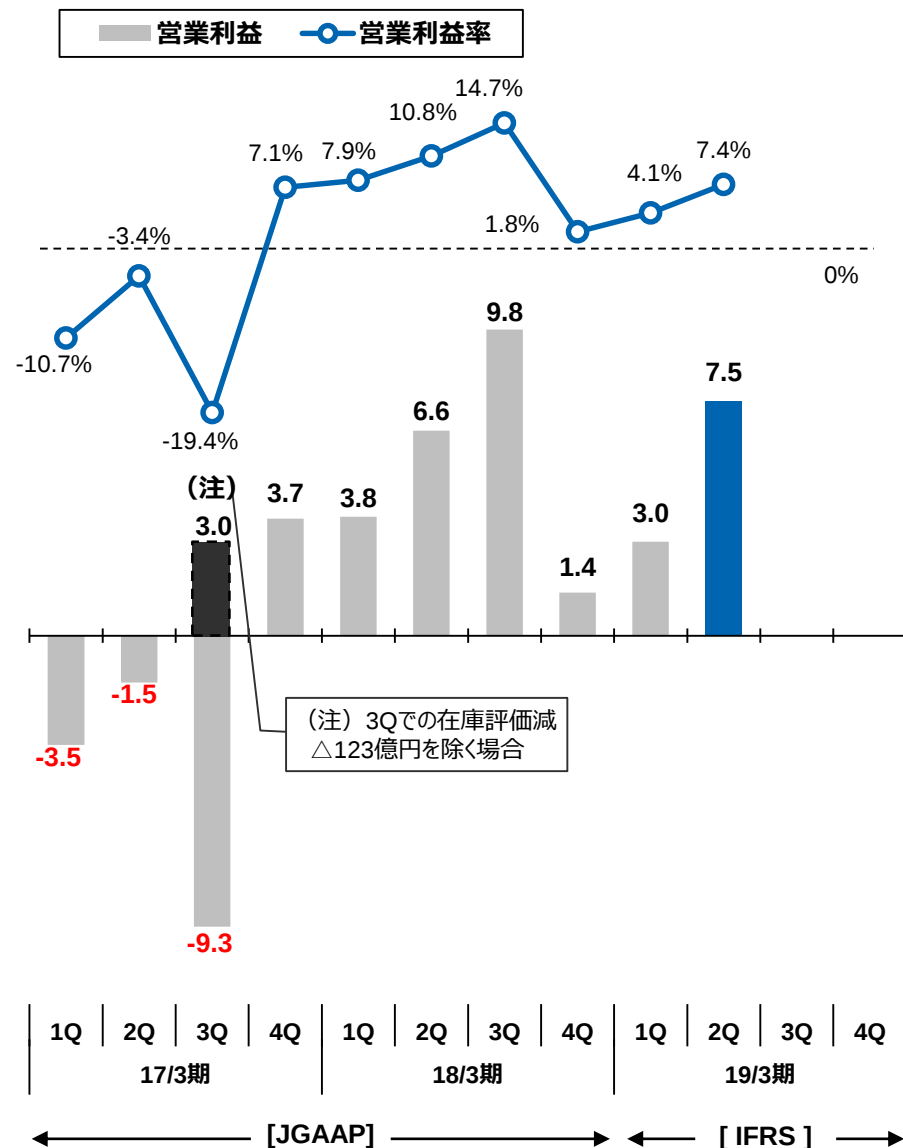


← [JGAAP] → ← [IFRS] →

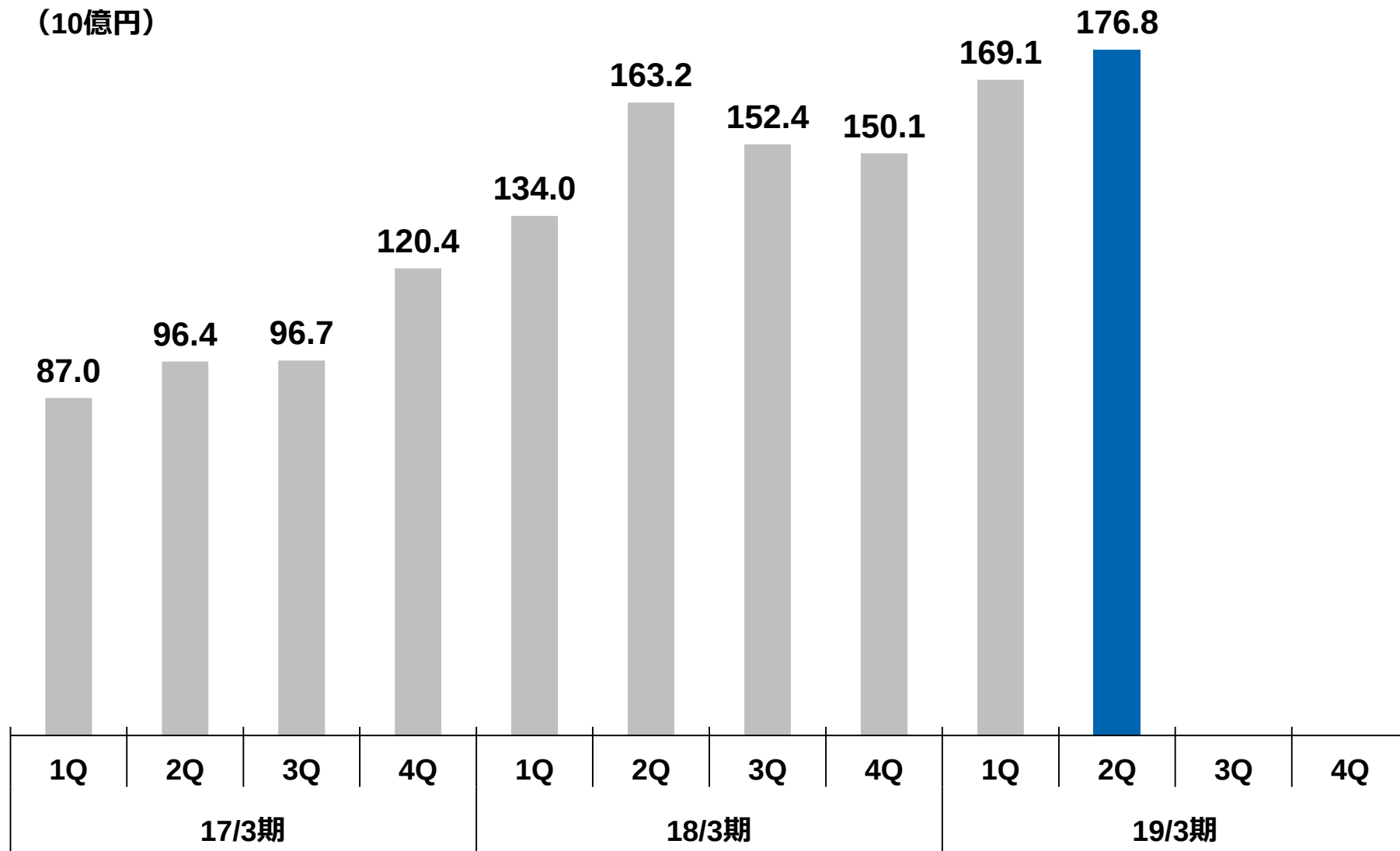
売上高 (10億円)



営業利益 (10億円)



(10億円)



[JGAAP]

[IFRS]

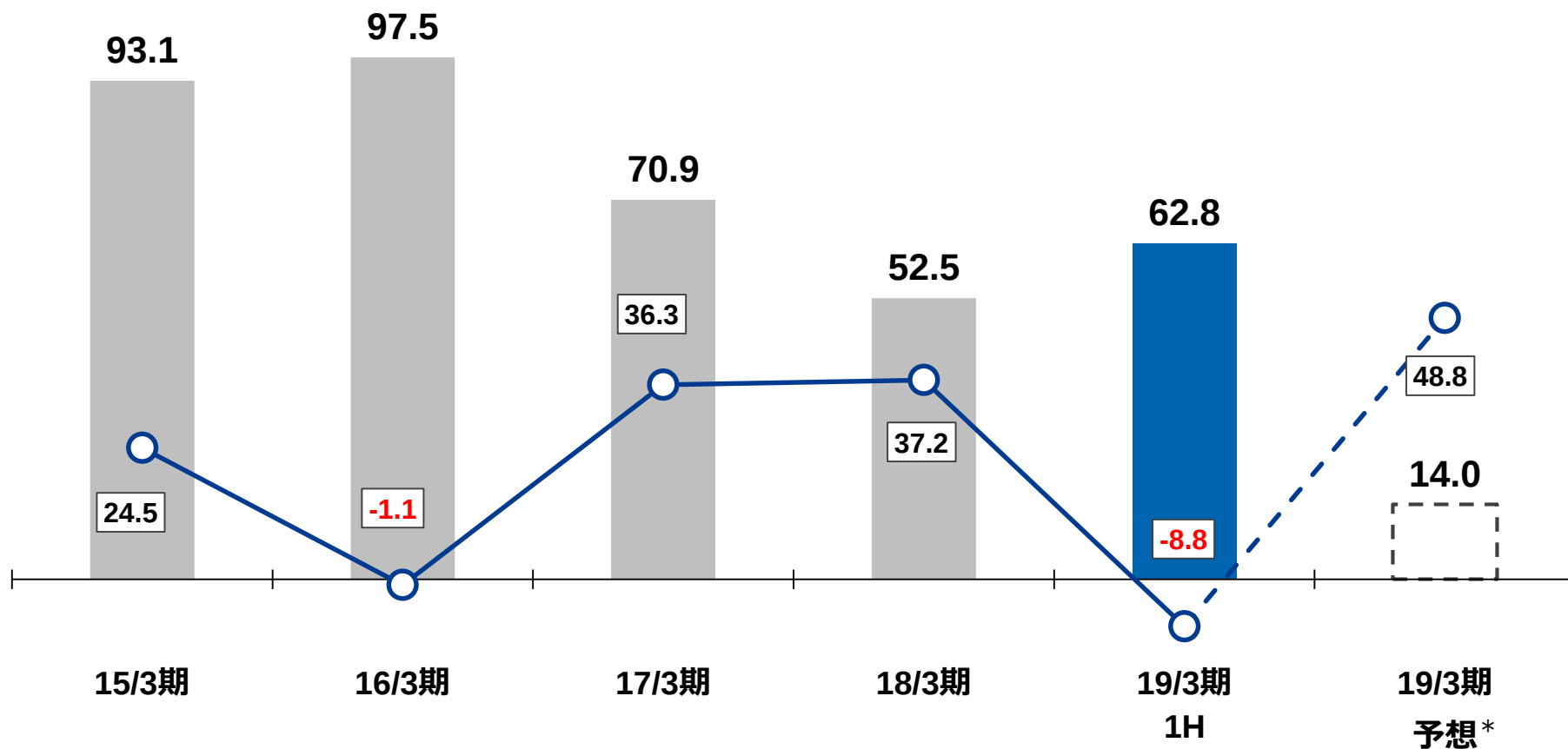
ネット有利子負債、フリーキャッシュフロー

18/3期以前はJGAAP

(10億円)

■ ネット有利子負債

○ フリーキャッシュフロー



*TOBによる影響は含まず

[JGAAP]

[IFRS]

当期利益を修正

[IFRS]

(百万円)	2018年3月期 通期	2019年3月期			
		上半期	下半期	通期	前期比
売上高	881,413	449,368	490,632	940,000	+6.6%
営業利益	68,902	33,915	51,085	85,000	+23.4%
税引前利益	66,855	34,276	49,724	84,000	+25.6%
親会社の所有者に帰属する 当期利益	50,326	26,856	40,144	67,000	+33.1%
基本的1株当たり 当期利益 (円)	119.61	64.00	95.64	159.64	+33.5%

為替レート	18/3期 通期	19/3期 2H想定
US\$	111.19円	110.00円
ユーロ	129.36円	130.00円
タイバーツ	3.35円	3.39円
人民元	16.70円	16.40円

[IFRS]

(百万円)	2018年3月期 通期	2019年3月期			
		上半期	下半期	通期	前期比
売上高	881,413	449,368	490,632	940,000	+6.6%
機械加工品	176,427	95,435	94,565	190,000	+7.7%
電子機器	451,879	179,142	230,858	410,000	-9.3%
ミツミ事業	252,415	174,482	164,518	339,000	+34.3%
その他	693	309	691	1,000	+44.3%
営業利益	68,902	33,915	51,085	85,000	+23.4%
機械加工品	41,007	24,205	25,795	50,000	+21.9%
電子機器	24,096	5,914	21,086	27,000	+12.1%
ミツミ事業	20,069	10,484	15,516	26,000	+29.6%
その他	△806	△159	△341	△500	-38.0%
調整額	△15,463	△6,529	△10,971	△17,500	+13.2%

サステナビリティに関するトピックス

NMBミネベア・タイが「労務管理優秀賞2018」を受賞

- タイ労働保護福祉局より、当社**アユタヤ工場**と**ロジャナ工場**が受賞
- 優れた労働環境、福利、安全衛生管理を**継続して維持**していることが評価
- 社是である「**五つの心得**」のひとつである「従業員が誇りを持てる会社でなければならぬ」を実践したもの

グローバルで継続的に、働きやすい安全な職場環境を整備

ESG情報の開示推進と、ESG対話の開始

- CSRレポートに加えて、**統合報告書**を発行。コミュニケーションツールとして活用し、いただいたご意見やご要望をトップマネジメントへフィードバック
- **会社ウェブサイトの改善**および開示情報の充実を推進

持続的な成長の源泉、非財務情報を積極的に説明

MinebeaMitsumi
Passion to Create Value through Difference

事業概況と経営戦略

Business Update & Management Strategy

2018年11月7日

代表取締役 会長兼社長執行役員
(CEO & COO)

貝沼 由久



- 2Q全体：一部事業で期ズレと一過性費用が発生も、ほぼ計画通りで着地。
- 機械加工品：ボールベアリングの販売・生産数量は四半期として過去最高。営業利益500億円は、当初目標（21/3期）から2年前倒しで達成見込み。
- 電子機器：LEDバックライトは期ズレが発生。新機種の生産立ち上げは順調。
モーターは予定通り、今期売上高2,000億円へ。
- ミツミ事業：機構部品は利益確保。カメラアクチュエータは下半期本格化。
- 上半期はLEDバックライトが赤字にも関わらず、営業利益340億円達成！
- M&Aで成長が大きく前進。次世代製品に向けたポートフォリオ強化。
- 関税問題は大きな事業機会。
China+1の動きと、対米輸出の中国製ベアリングに25%関税適用。

引き続きコア事業が業績をけん引

ポイント

- 機械加工品は高い確度で成長が継続
- ボールベアリングの需要は堅調
- スマホ向け新機種の立ち上げは順調
(LEDバックライト、カメラアクチュエータ)
- モーターはトップライン成長と収益改善が継続
- 機構部品は利益確保の見込み
- 為替は1USD=¥110

(百万円)	2018年3月期 通期	2019年3月期計画			
		上半期実績	下半期予想	通期予想	前期比
売上高	881,413	449,368	490,632	940,000	+ 6.6%
営業利益	68,902	33,915	51,085	85,000	+ 23.4%
親会社の所有者に帰属する 当期利益	50,326	26,856	40,144	67,000	+ 33.1%
基本的 1 株当たり 当期利益 (円)	119.61	64.00	95.64	159.64	+ 33.5%

収益力の向上で、今期営業利益500億円へ

ボールベアリング事業

- 2Qは外販、生産ともY-Y、Q-Qで増加
- 3Q以降は、一部用途で一時的な調整の可能性も、中長期では、**自動車のCASE、IoE、5Gのインフラ整備**で今後も伸びる

中長期の需要見通しに変更はなし

- 需要調整の場合でも、**収益力は向上**

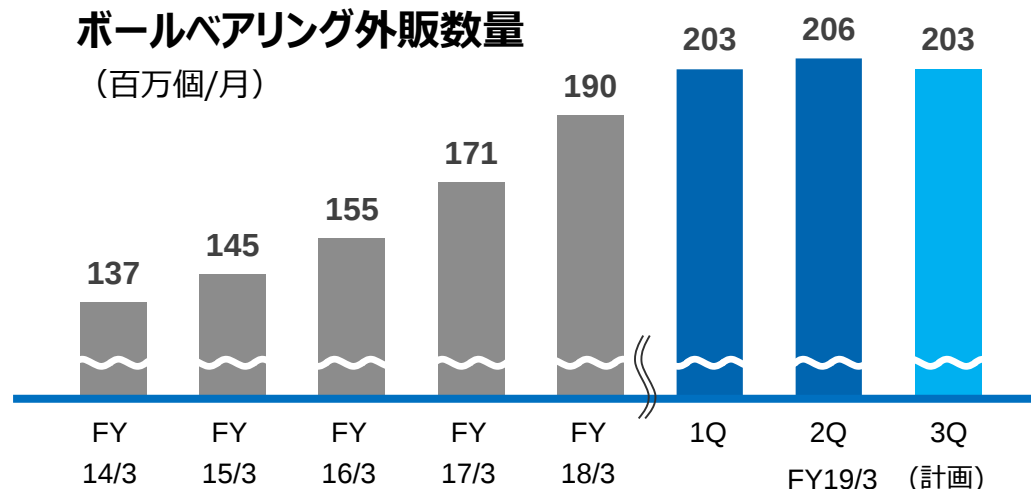
- ✓ 在庫水準の最適化
- ✓ 輸送費の低減
- ✓ 価格改定の効果

収益構造を適正にするチャンス

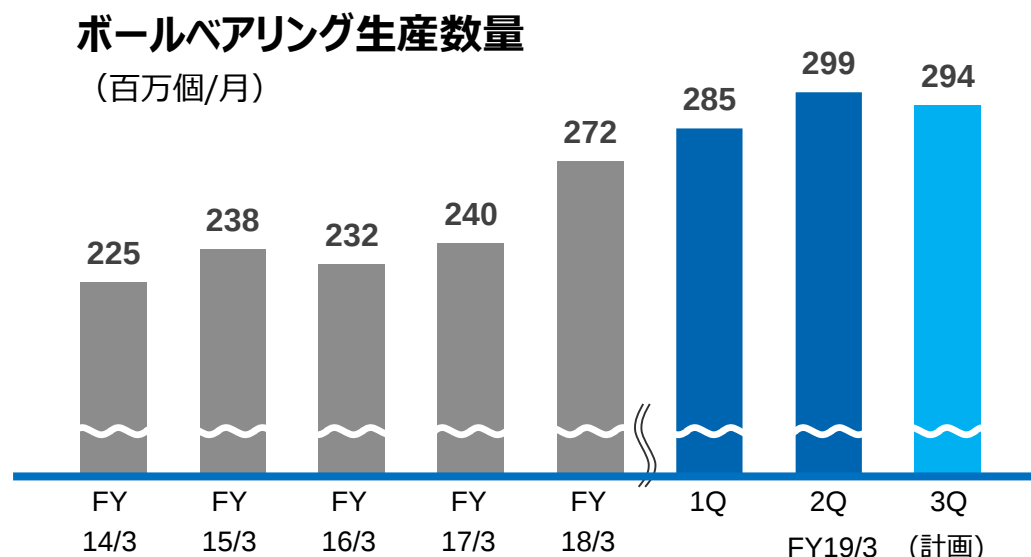
ロッドエンド・ファスナー事業

- **ファスナーの完全黒字化達成**

ボールベアリング外販数量
(百万個/月)



ボールベアリング生産数量
(百万個/月)



LEDバックライトは順調に立ち上がり モーターは引き続き堅調に推移

LEDバックライト事業

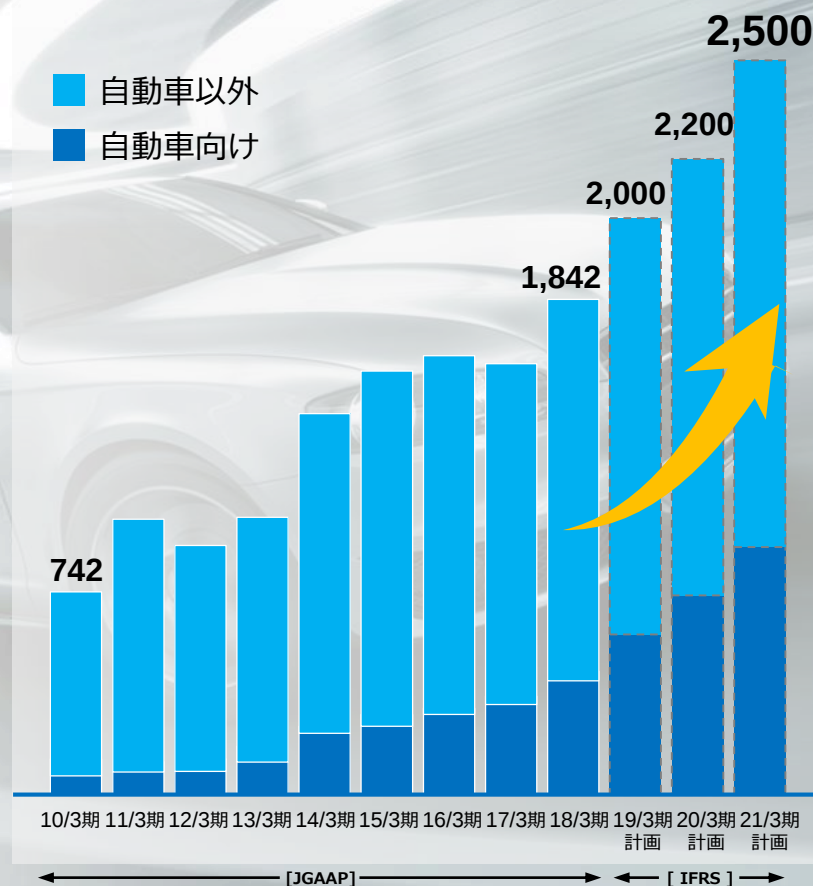
- 2Qは月ズレ発生
- 新機種の生産立ち上げは順調
- 有機EL対抗ディスプレイの開発はサプライチェーンで実施中

モーター事業

- モーターは自動車を中心に引き続き堅調に推移
- 今期の売上高2,000億円へ

モーター事業 売上計画 (億円)

■ 自動車以外
■ 自動車向け



2Qは期ズレと一過性費用が発生も 3Q以降の力強い増産

光デバイス事業

- 一部新機種向けで期ズレ発生も、3Qから大きく増産
(品質、歩留まりとも想定と大きな変化なし)
- 中国スマホもスペックアップで力強い事業機会

機構部品事業

- 今期の収益はほぼ想定通り

その他事業

- 半導体事業で北海道地震による一過性費用を計上も
生産は極めて順調に再開

- 米中関税問題により、
米国企業によるChina+1の機運が高まる。
- カンボジア工場等のグローバル64製造拠点の
活用の機会が急拡大。
(例) 中国産ベアリングへの25%の関税
→中国競合との価格差が縮小
- 多数の事業で、当社への見積もり依頼が殺到。

ユーシンとの経営統合に向けた公開買付け

対象会社	株式会社ユーシン（証券コード：6985）	u-shin
期間	現状未定 ※2019年1月下旬を目指す	
買付けの価格	普通株式1株につき985円	
買付代金	32,622百万円	
買付予定株式数	(上限) なし (下限) 22,079,500株（発行済株式総数の66.67%）	

期待されるシナジー

- 1. 自動車メーカーへのプレゼンス拡大**
顧客要求に合致した新製品の開発力と提案力
- 2. Tier1レベルの営業機能とグローバル生産拠点の活用**
クロスセルと「Time to Market」の実現
- 3. 技術シナジーの発揮**
各々のコア技術を「相合」した新製品・新サービスによる新たな経済価値の創造
- 4. 高い機能安全と品質管理手法の導入**
自動車部品の品質のノウハウをマスター
- 5. 垂直統合の相互促進による競争力強化**
例：ユーシンの成形・塗装・色調整技術等をミネベアミツミの多彩な自動車向け部品に応用
- 6. 自動車技術を住宅へ**
IoT関連事業における新たなソリューションの創出

自動車部門



ESCL
(電動ステアリングロック)

産業機械部門



各種燃料ポンプ

住宅機器部門



EDM(枠付電気鋳)

M&Aによるポートフォリオ強化と 相合によるシナジーで事業規模が大きく拡大

◆既存事業の「CASE」と ユーシンとのシナジーによる新たな事業機会

コネクティッド

Connectivity

- ミツミ事業を中心としたCar2Car、Car2X等のネットワーク向けデバイス
- キーセットやスイッチ等を含めたポートフォリオ拡充

自律走行

Autonomous

- LiDAR用BLDC、高周波モジュール等のADAS向けデバイス
- 独自アルゴリズムによるミリ波レーダー等、センシング分野の強化

共有

Shared & Services

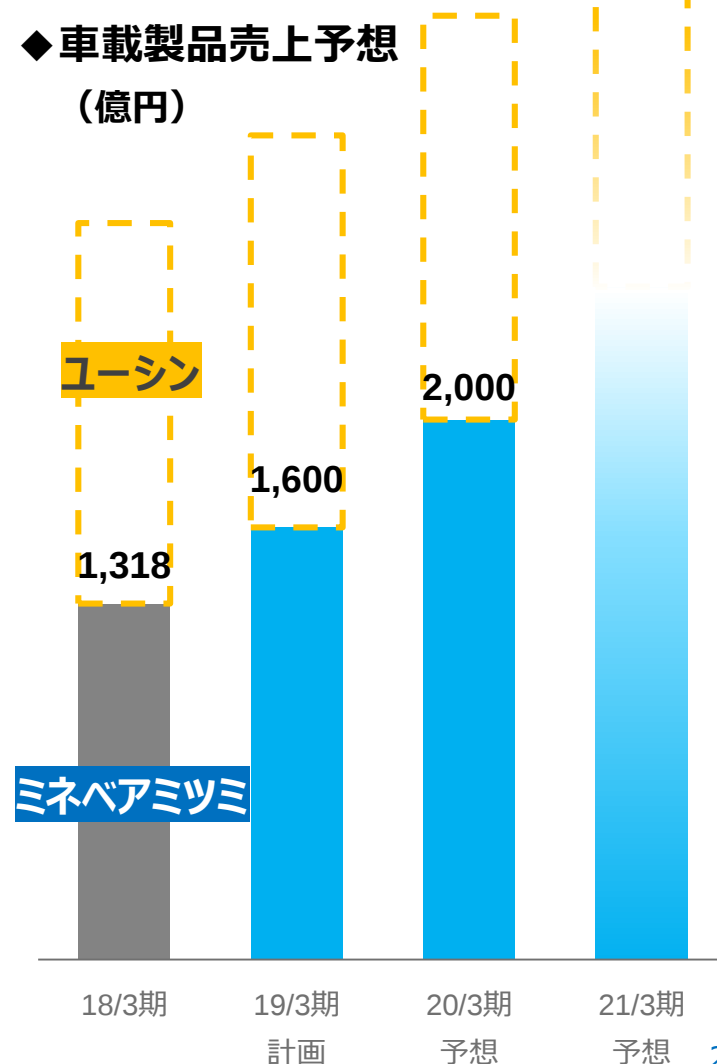
- カーシェア、ライドシェアの普及による稼働率の大幅な上昇で、省エネ貢献型の当社製品の需要増大
- Tier1メーカーとしてのOEMメーカーとの関係強化

電動化

Electric

- 各種冷却ファン向けボールベアリング、レゾルバ等、EV向け既存ビジネスの拡大
- ロック機構やゲート機構等の電動化と、ミネベアミツミ製品との相合による競争力強化

◆車載製品売上予想 (億円)



SALIOT

引き合い急増と
イベント開催

acoya with lights by SALIOT

Bed Sensor System

リコー様が
販売活動開始

Smart City

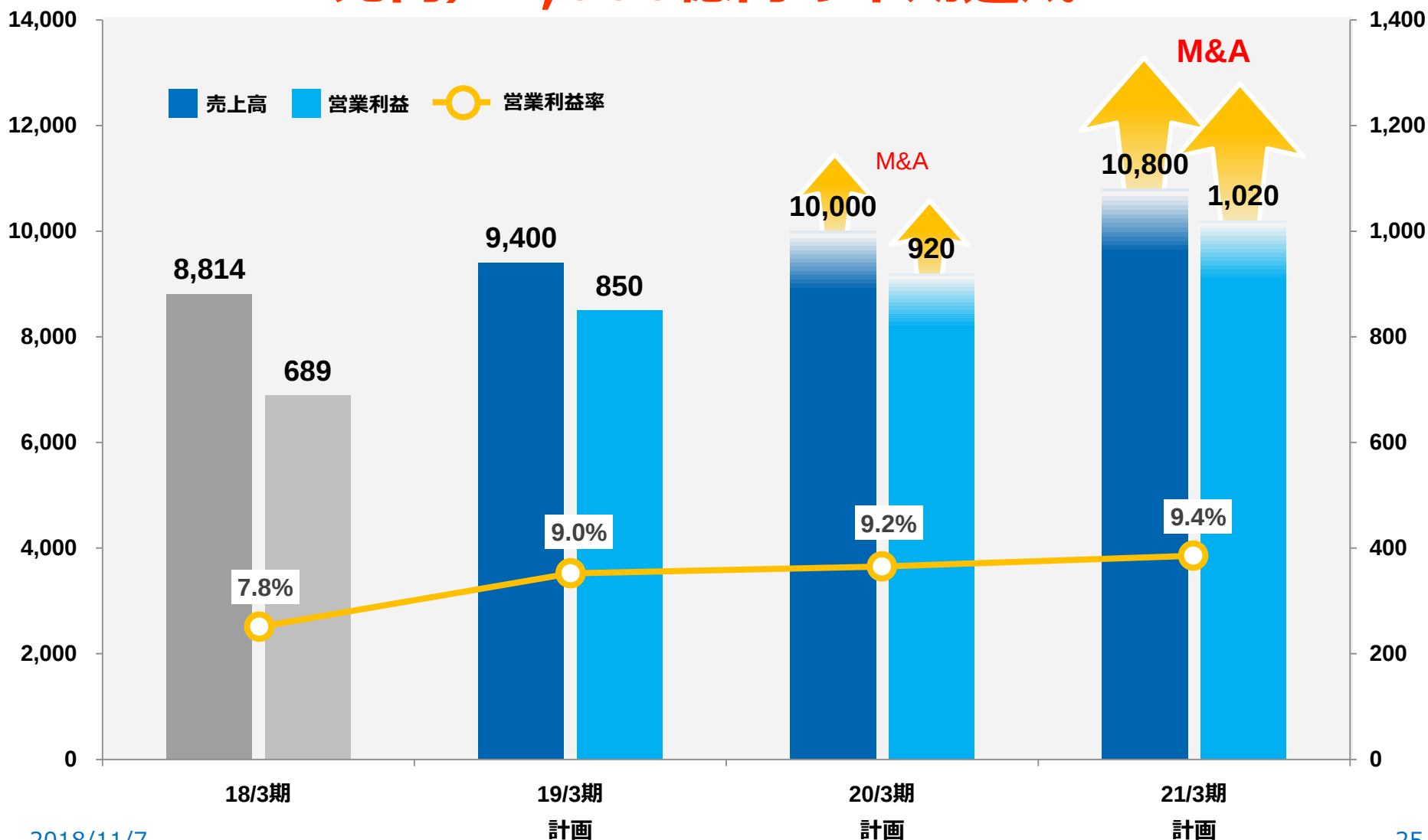
製品開発を強化

ノード、ゲートウェイ、
環境センサ、パーキングセンサ等

オーガニック成長と積極的なM&Aで 1兆円／1,000億円の早期達成へ

(億円)

(億円)



業績見込みを反映して増配

	18/3期 実績		19/3期 実績/予想
中間配当	13円/株	→	14円/株
期末配当	13円/株	→	14 [*] 円/株
合計	26円/株	→	28 [*] 円/株

* 19/3期の期末配当は、当期の業績を勘案した上で連結配当性向20%程度を目処に決定の予定

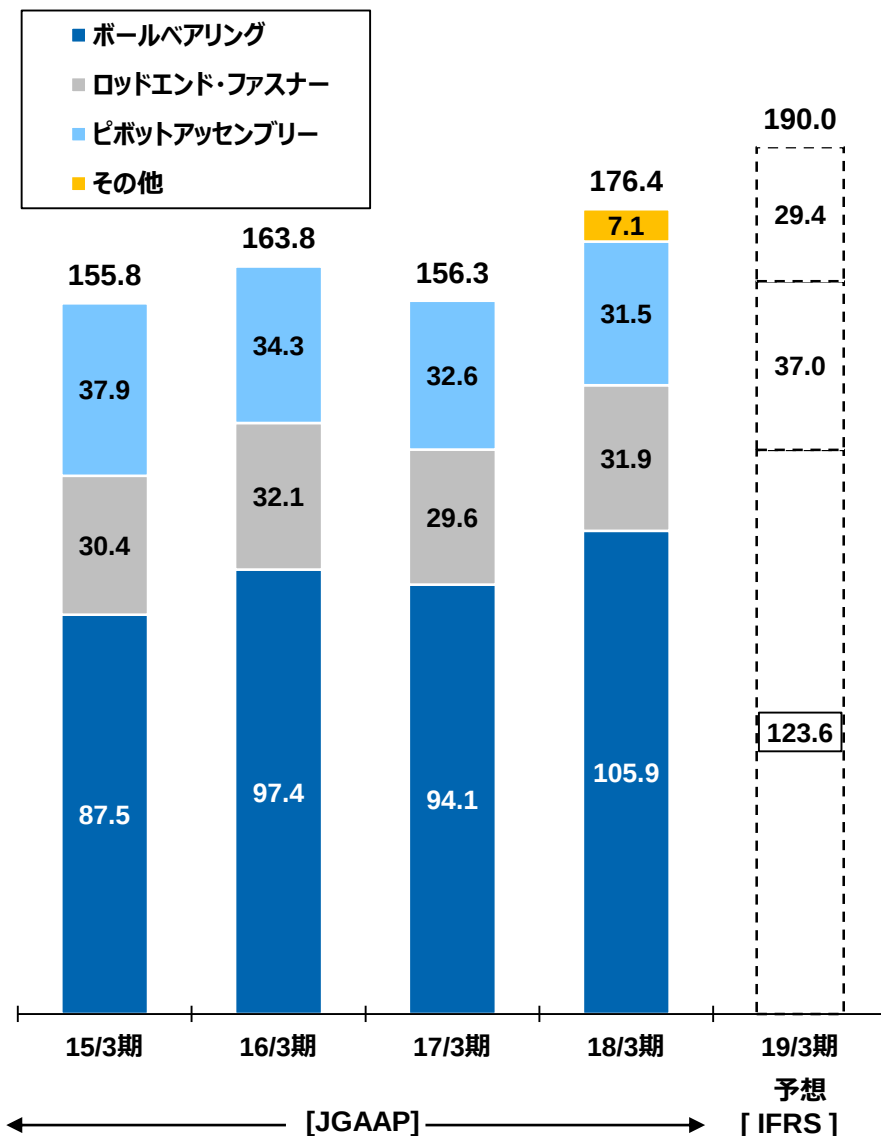
**来期の1兆円／1,000億円達成へ
あらゆる手段を尽くします！**



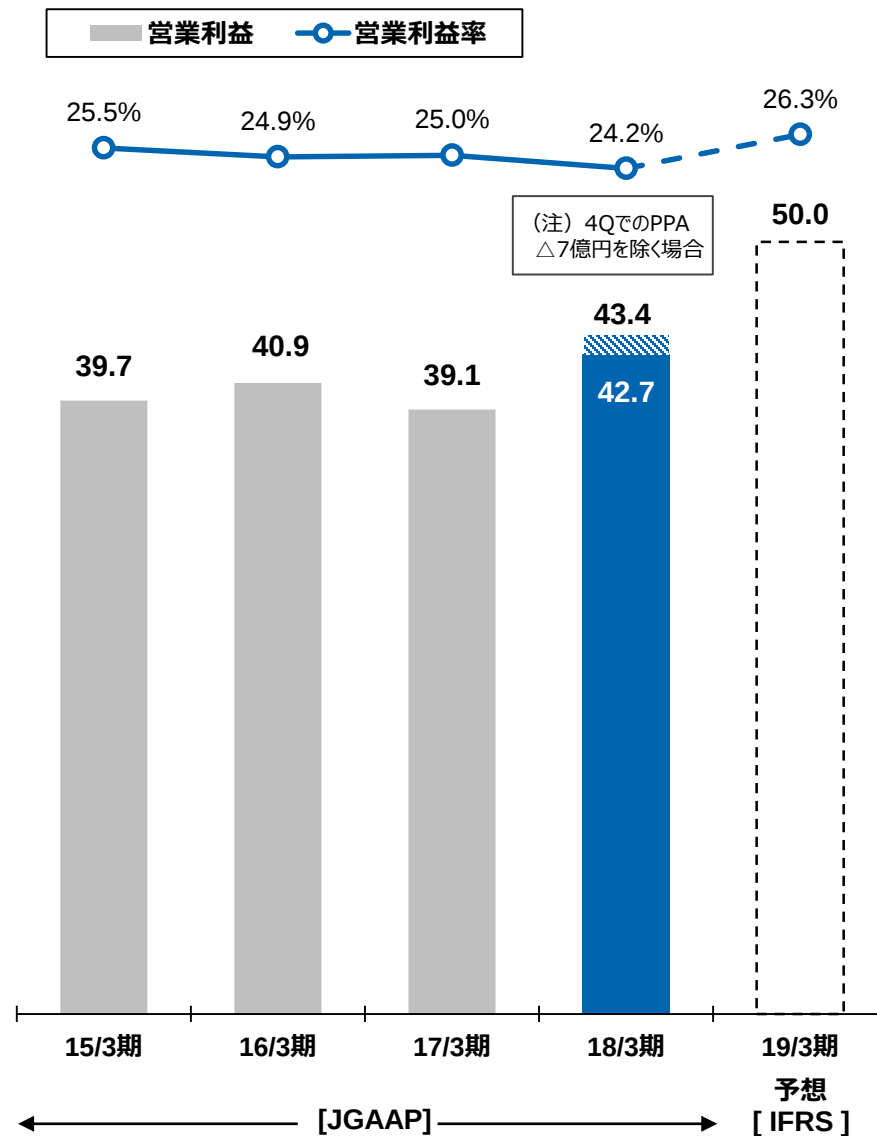
上記説明会で述べられた内容のうち歴史的事実でないものは、一定の前提の下に作成した将来の見通しであり、また、それらは現在入手可能な情報から得られた当社経営者の判断にもとづいております。実際の業績は、さまざまな要素により、これら見通しとは大きく異なる結果となる場合があります。実際の業績に影響を与える重要な要素としては、(1)当社を取り巻く経済情勢、需要動向等の変化、(2)為替レート、金利等の変動、(3)エレクトロニクスビジネス分野で顕著な急速な技術革新と継続的な新製品の導入の中で、タイムリーに設計・開発、製造・販売を続けていく能力、などです。但し、業績に影響を与える要素はこれらに限定されるものではありません。本資料に掲載のあらゆる情報はミネベアミツミ株式会社に帰属しております。手段・方法を問わず、いかなる目的においても当社の事前の書面による承認なしに複製・変更・転載・転送等を行わないようお願いいたします。

参考資料

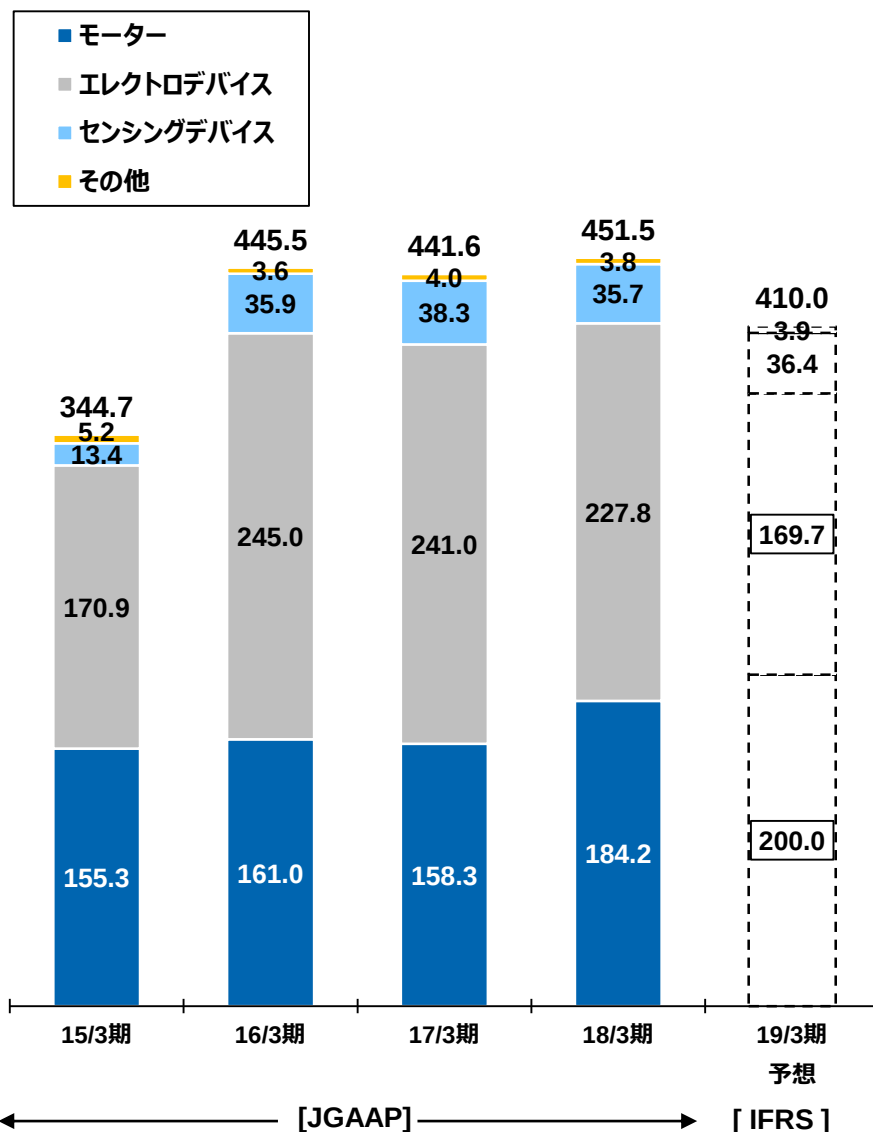
売上高 (10億円)



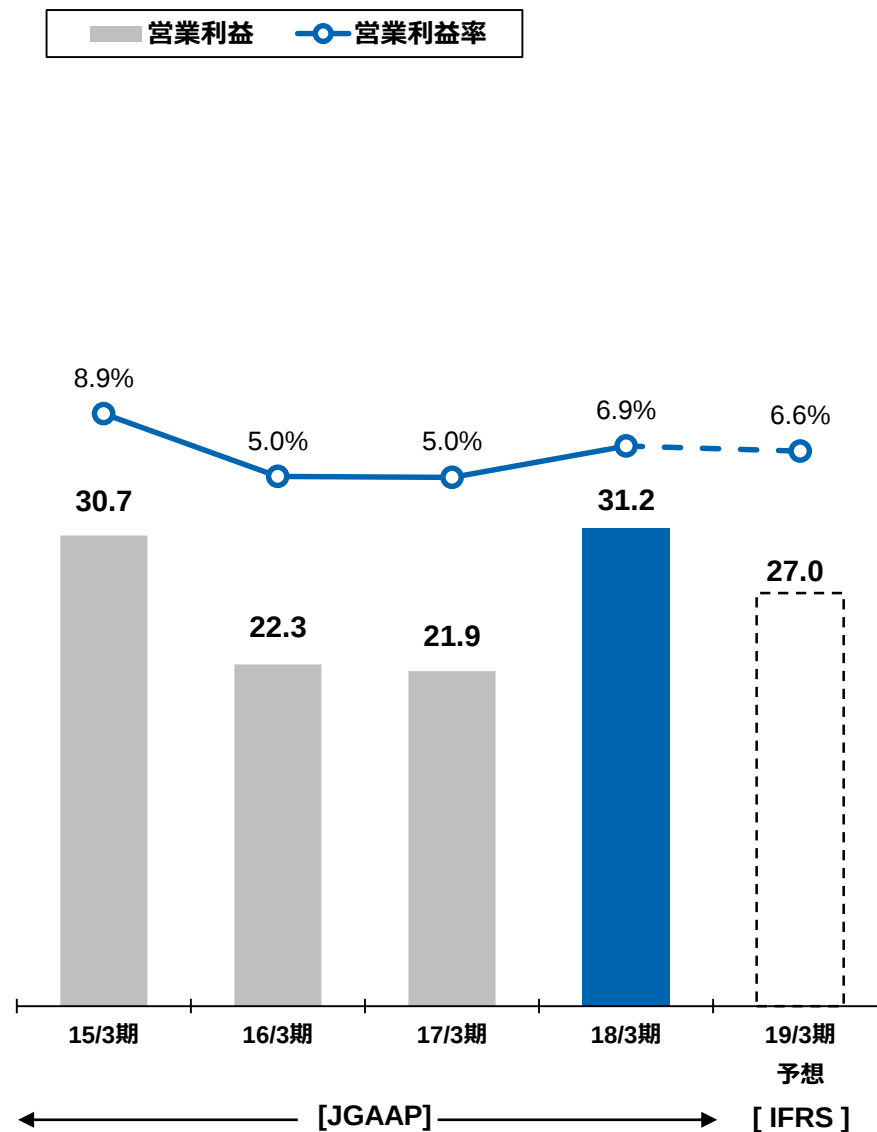
営業利益 (10億円)



売上高 (10億円)



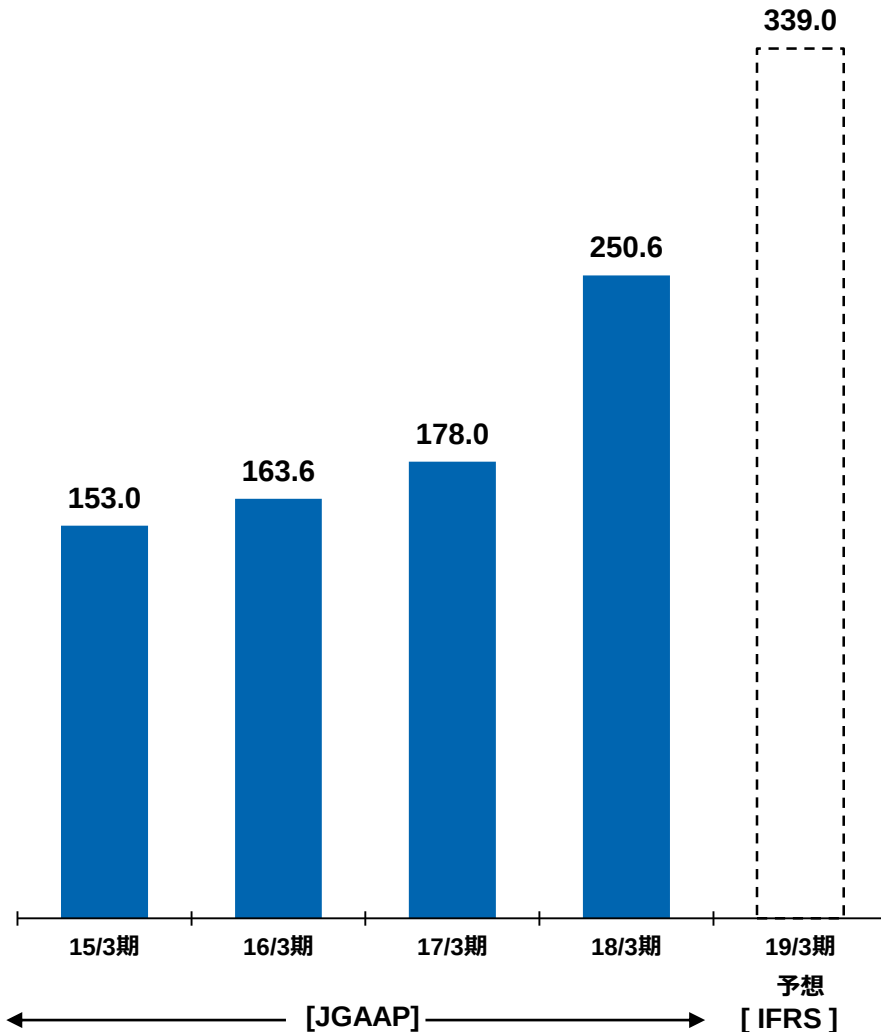
営業利益 (10億円)



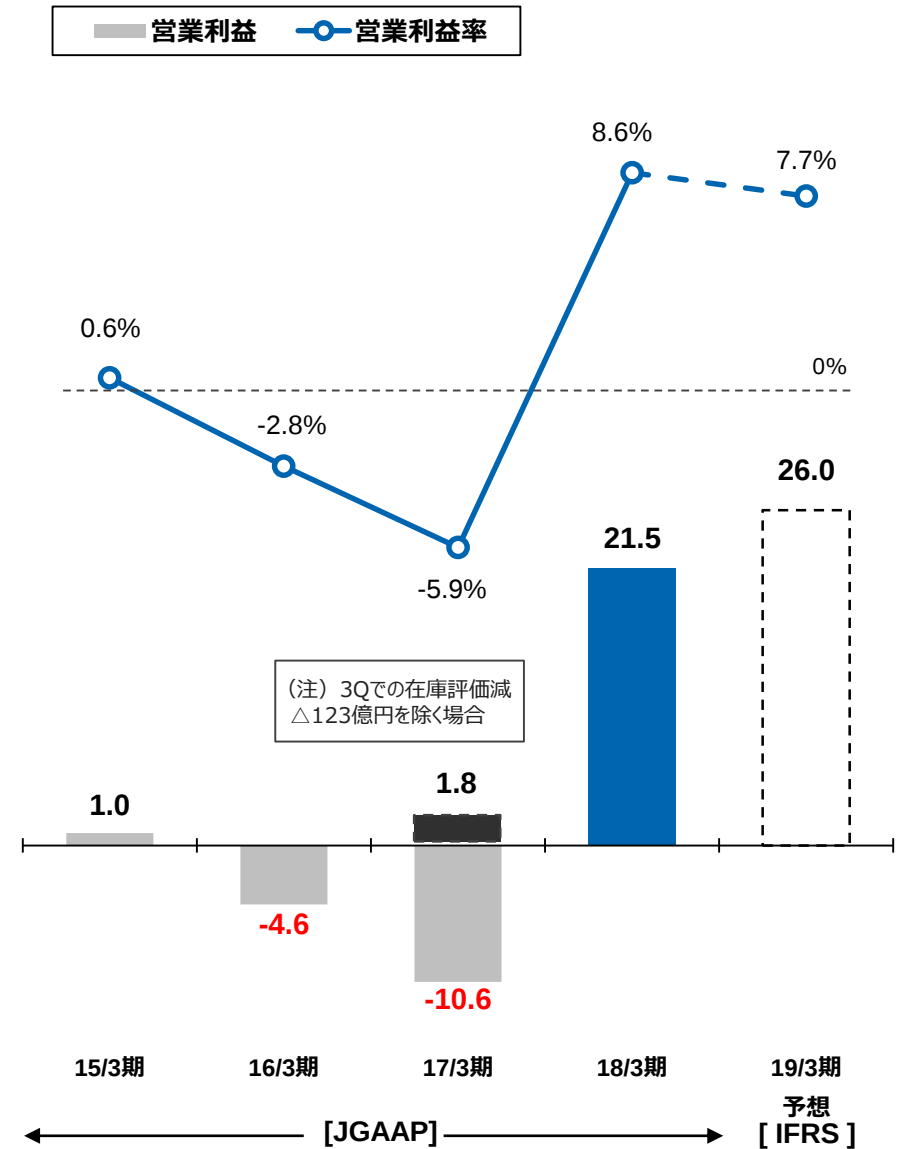
ミツミ事業セグメント (含む統合前)

売上高、営業利益ともに、17/3期3Qまでは、経営統合前。
17/3期4Qは3ヶ月分の管理会計ベース。18/3期以前はJGAAP

売上高 (10億円)



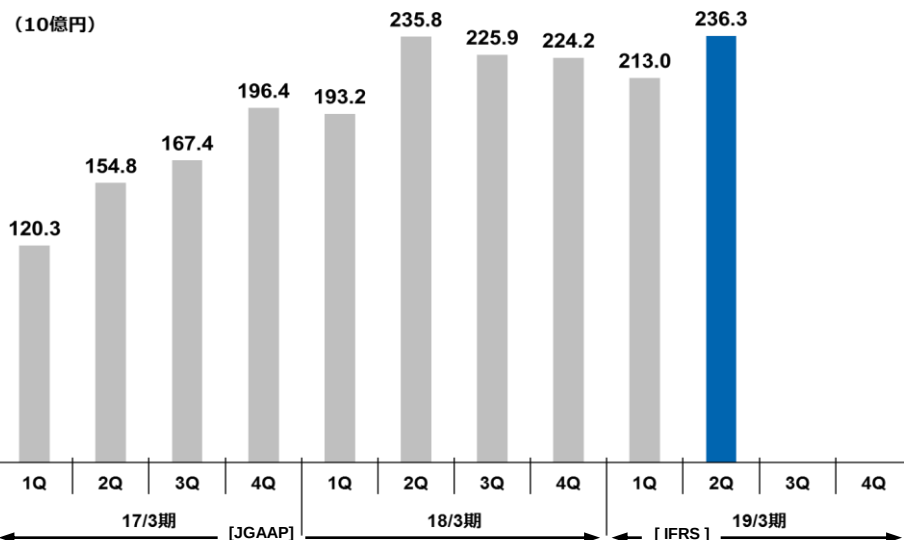
営業利益 (10億円)



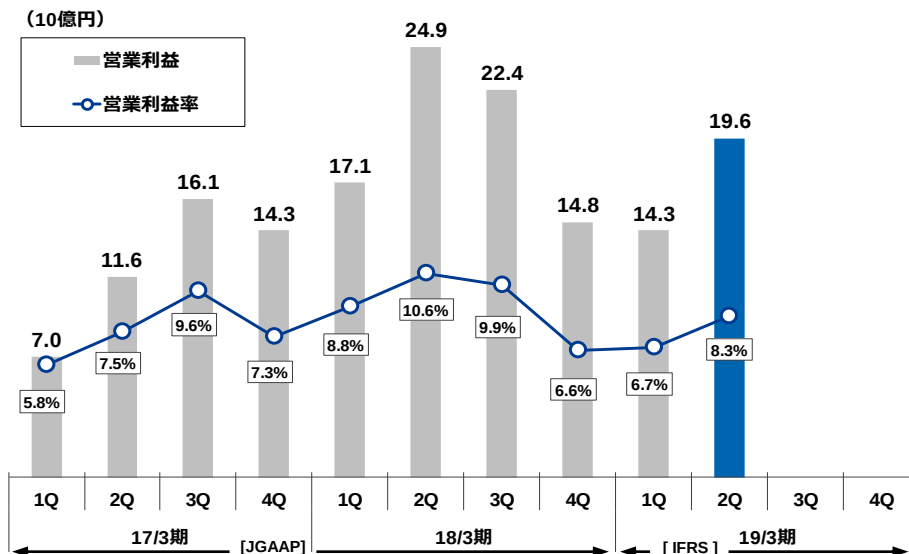
その他四半期実績①

18/3期以前はJGAAP

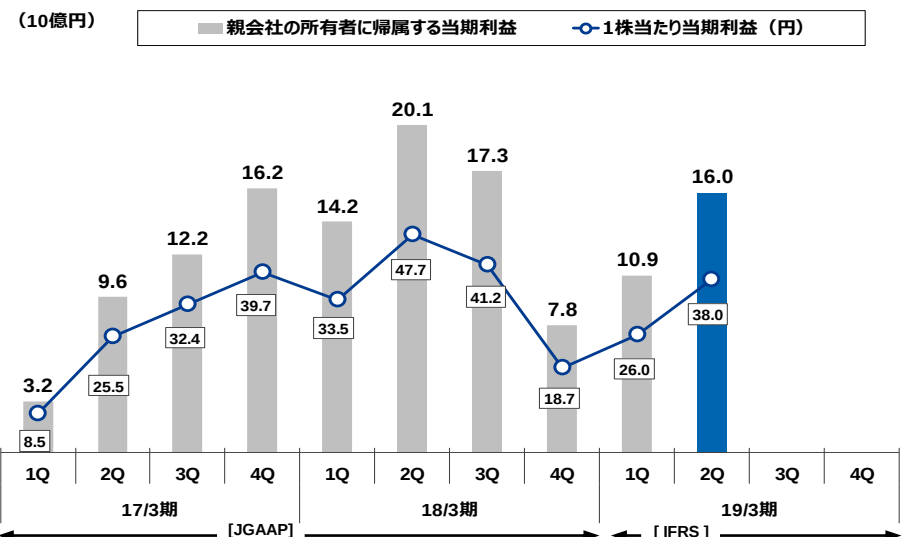
売上高



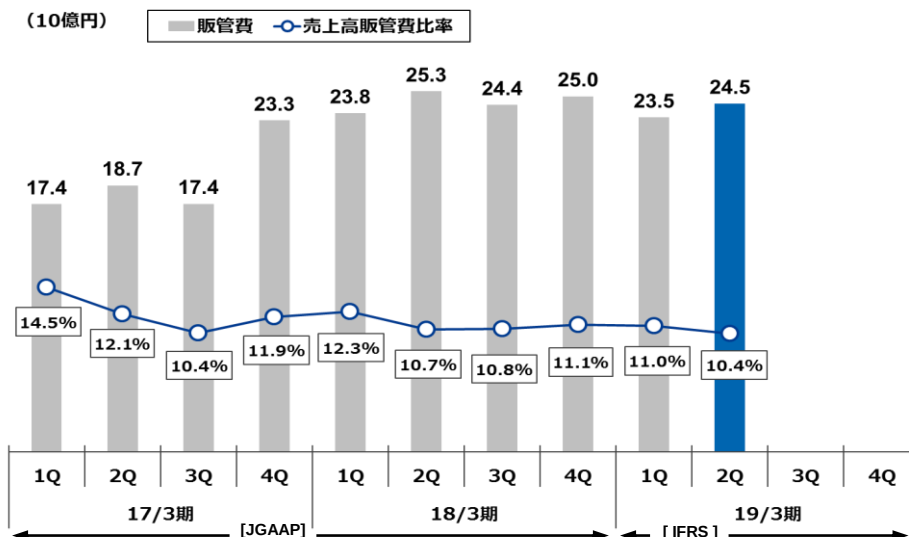
営業利益、営業利益率



親会社の所有者に帰属する当期純利益、1株当たり当期純利益



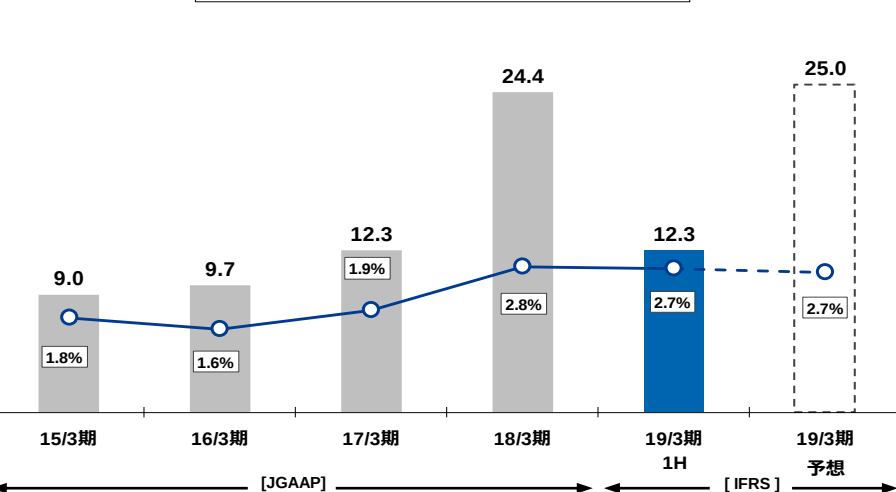
販管費、売上高販管費比率



研究開発費、対売上高比率

(10億円)

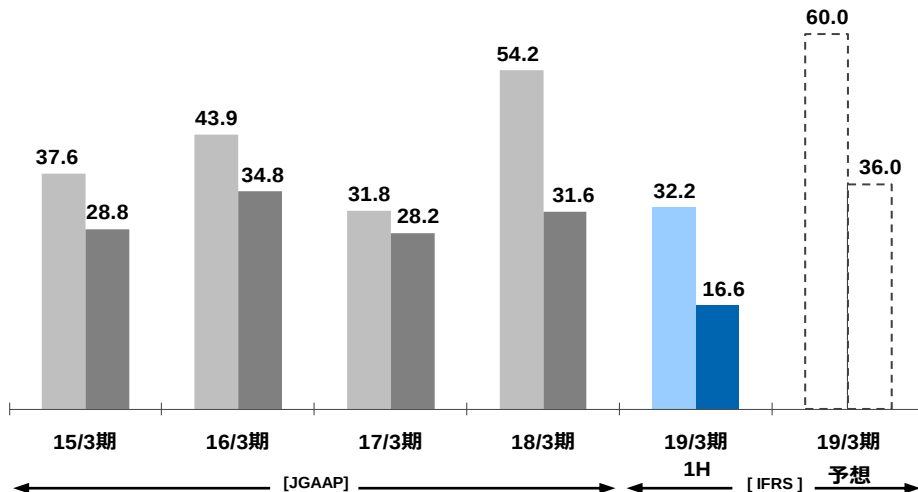
■ 研究開発費 ○ 研究開発費売上高比率



設備投資額、減価償却費

(10億円)

■ 設備投資額 ■ 減価償却費



ROIC（投下資本利益率）

18/3期以前はJGAAP

ミネベアミツミ版
ROIC

=

NOPAT

（営業利益＋特別損益）×（1－税率）

投下資本

（受取手形・売掛金＋棚卸資産＋固定資産－支払手形・買掛金）

セグメント別で管理できる事業資産（売上債権・債務、棚卸資産、固定資産）で算出

